

## 令和5年度 横須賀美術館運営評価委員会

### ●横須賀美術館運営評価委員会（令和5年度第3回）

日時：令和6年（2024年）3月25日（木）13時00分～14時30分

場所：横須賀美術館 ワークショップ室

#### 1. 出席者

|        |               |       |               |
|--------|---------------|-------|---------------|
| 【出席委員】 | 委員長           | 小林 照夫 | 関東学院大学名誉教授    |
|        | 委員（委員長職務代理者）  |       |               |
|        |               | 菊池 匡文 | 横須賀商工会議所専務理事  |
|        | 委員            | 柏木 智雄 | 横浜美術館副館長      |
|        | 委員            | 関口 洋輔 | ラビスタ観音崎テラス支配人 |
|        | 委員            | 三浦 匡  | 横須賀市立根岸小学校校長  |
|        | 委員            | 倉田 睦  | 市民委員          |
|        | 委員            | 前波 美雪 | 市民委員          |
| 【館長】   | 文化スポーツ観光部長    | 倉林 孝英 |               |
| 【事務局】  | 美術館運営課長       | 岡本 剛彦 |               |
|        | 美術館運営課総務係長    | 下田 哲央 |               |
|        | 美術館運営課（学芸員主査） | 富田 康子 |               |
|        | 美術館運営課（学芸員主査） | 工藤 香澄 |               |
|        | 美術館運営課（学芸員主任） | 日野原清水 |               |
|        | 美術館運営課（総務係主任） | 下田 優美 |               |

【傍聴者】 1名

#### 2. 議事

（1）令和6年度 横須賀美術館 事業計画書（案）について

#### 3. その他

（1）今後のスケジュールについて

## 会議録

### 【開会】

〔事務局・下田哲〕：定刻になりましたので、「令和5年度 第3回横須賀美術館運営評価委員会」を開会いたします。

本日は、お忙しい中、お集まりいただき、誠にありがとうございます。

私は、委員長に引き継ぐまで司会を担当させていただきます美術館運営課総務係の下田と申します。よろしくお願いいたします。

### 【1 あいさつ】

〔事務局・下田哲〕：それでは、ここで事務局を代表しまして、館長の倉林より、ご挨拶させていただきます。

〔倉林館長〕：横須賀美術館長の倉林でございます。

本日は、ご多忙の中、令和5年度 第3回横須賀美術館運営評価委員会にご出席いただき、誠にありがとうございます。

昨年5月に新型コロナウイルスの感染症法上の分類が5類に移行され、まもなく11か月が過ぎようとしています。その間、横須賀美術館では、箱根地域の美術館との連携企画や国際色豊かな企画などを実施してまいりました。

現在開催している「日本の巨大ロボット群像」展は、大変ご好評いただいております。また、昨年秋に開催が決定しました「鈴木敏夫とジブリ展」につきましても、大変多くの方にお越しいただいております。

一方で、「児童生徒造形作品展」のような毎年度開催している展覧会についても、堅実に実施しております。

今後も職員が一丸となって美術館を運営してまいりたいと考えています。

委員の皆様からは、ぜひ、忌憚のないご意見を頂戴できればと思っております。

それでは、本日もよろしくお願いいたします。

〔事務局・下田哲〕：本日の出欠状況です。

出席者は現在の委員全7名全員にご出席いただいております、横須賀美術館運営評価委員会条例第4条第2項に定める「半数以上出席」の要件を満たすこととなり、本日の会議は成立となります。

また、本日は傍聴の方が1名いらっしゃっています。

〔事務局・下田哲〕：それでは、本日の資料の確認をさせていただきます。

まず、本日机上にご用意させていただきましたものは、次第、資料1の「委員名簿」、資料2の「令和6年度事業計画書案」、資料3の「運営評価委員会スケジュール」の4つです。

以上が本日の資料でございます。不足等ございませんでしょうか。  
それでは、小林委員長、議事の進行をお願いいたします。

【2 議事（1）令和6年度 横須賀美術館 事業計画書（案）について】

〔小林委員長〕：それでは、次第に沿って、議事を進めます。

議事（1）令和6年度 横須賀美術館 事業計画書（案）について、事務局から説明をお願いします。

〔事務局・下田哲〕：令和6年度 横須賀美術館 事業計画書（案）についてご説明させていただきます。

この事業計画案につきましては、新年度予算に計上している事業、また、予算には出てこない部分を含め、新年度開始に先立ち委員の皆様へ令和6年度の計画を事前説明することにより、ご意見をいただき、事業の早期改善に役立て、かつ業務の進行管理を行っていきたいと考えております。

計画書内の令和5年度の数値は全て1月末現在に統一させていただいておりますので、ご承知おきくださいますようお願いいたします。

それでは、お手元の資料「横須賀美術館 事業計画書（案）」の1ページをご覧ください。1ページの上段の序文につきましては、館長挨拶と重複しますので割愛させていただきます。

その下の「横須賀美術館の使命・目標」については、従前と変更ございません。お手元の計画書もこちらの目標に沿った形で作成してあります。

それでは、2ページ目以降を、各担当から説明させていただきます。

〔事務局・下田哲〕：事業計画書の2ページをご覧ください。

「Ⅰ 美術を通じた交流を促進する」のうち「① 広く認知され、多くの人にとって横須賀市を訪れる契機となる」の事業計画及び目標について説明させていただきます。

まず、令和6年度の事業計画、「1 展覧会の実施」についてです。

例年は、1階の展示室で5つの企画展と児童・生徒造形作品展の6本を開催しています。令和6年度は、1階の展示室での5つの企画展と児童・生徒造形作品展の6本のほか、地階展示室において、現在開催中の「鈴木敏夫とジブリ展」、10月26日から開催する「運慶展」の2本を企画展として開催します。展覧会名、会期及び観覧者の見込み数は記載のとおりです。

年間観覧者見込みは239,400人、横須賀美術館では最多となります。こちらは、各展覧会ごとに、当館で開催した過去の同様の展覧会を参考に観覧者数を算出し、見込み観覧者数を記載しています。

次に「2 広報・集客促進事業」です。

令和5年度と同じ6つの柱で記載しています。各項目の具体的な取り組みにつきましては記載にあるとおりです。

3ページをご覧ください。「(3) 外部連携による集客推進」につきまして、特に、現

在開催中の「鈴木敏夫とジブリ展」について、神奈川県や株式会社トライアングル、京浜急行電鉄を初めとする民間企業と共催、協力しながら進めているところです。

「(6) オンラインコンテンツ等の拡充」についてですが、新たに公式LINEを、この3月から始めることとしました。登録していただいた方に、当館の展覧会の情報を通知していく予定です。ジブリ展の出口に登録をお願いするポスターを貼っています。

次に4ページをご覧ください。「達成目標」についてです。達成すべき観覧者数として23万9千4百人を目標としております。「実施目標」については、今年度の計画と変更点はありません。

〔事務局・富田〕：続きまして、「② 市民に親しまれ、市民の交流、活動の拠点となる。」について説明させていただきます。5ページをご覧ください。

本項目は、当館のボランティア活動に関する評価項目です。

まず、「事業計画」です。令和6年度のボランティア活動は、これまでどおり、活動の内容によって「ギャラリートークボランティア」「小学生美術鑑賞会ボランティア」「みんなのアトリエボランティア」「プロジェクトボランティア」及び「プロジェクト当日ボランティア」の5つとなっています。この活動を支援し、美術への親しみを増す一助となるとともに、活動が市民の交流の場となることを目指します。活動のスケジュールは、6ページ冒頭に掲載した表のとおりです。

続いて、「達成目標」です。市民ボランティアの活動者数及び協働事業への参加者数延べ1,700人とします。この人数は、活動に参加するボランティアの数とギャラリートークやイベントなどのボランティアが実施する事業への一般の参加者の数を合わせた数字です。内容ごとの数字の詳細は7ページの表をご覧ください。

なお、ボランティア活動は、令和2年度から新型コロナウイルス感染症の影響で活動休止や規模縮小が続いていましたが、令和4年度から徐々に活動を再開しています。令和5年度11月からギャラリートークも再スタートし、令和6年度は、新型コロナウイルス感染症の影響が出る以前の規模と頻度で活動できる見込みです。このため、「達成目標」も、従来水準に戻しています。

最後に「実施目標」です。7ページ下段をご覧ください。

「実施目標」は「市民が美術館に親しみを感じ、訪れる機会をつくる」「市民ボランティアが、やりがいを持っていきいきと活動できる場を提供する」の2つです。横須賀美術館のボランティアは、奉仕活動ではなく、美術館による社会教育の一環に位置づけられています。ボランティアメンバーが、それぞれの創意と経験を活かし、仲間どうし協力し、美術館ならではの活動をしていくこと、そしてそれが地域の新しいコミュニティとなることを目指します。

令和6年度も、この「実施目標」に向け、活動の周知や、ボランティアによる主体的な活動の充実に努めていきます。

〔事務局・工藤〕：「Ⅱ 美術に対する理解と親しみを深める」「③ 調査研究の成果を活かし、利用者の知的欲求を満たす。」についてご説明します。

8 ページをご覧ください。事業計画「1 展覧会事業」の（1）企画展についてご説明します。

幅広い関心にこたえるため、特定のテーマによる展示を自主事業として、通常開催する6本に加え、3月から6月にかけて、神奈川県下では初の大型ジブリ展である「鈴木敏夫とジブリ展」、10月からは、横須賀市の浄楽寺が所蔵する国指定重要文化財運慶仏5軀を紹介する「運慶展」をあわせた計8本を開催します。

通常開催する企画展としましては、4月には神奈川ゆかりの工芸も含めて紹介する「驚異の細密表現展」、夏には独特な世界観と緻密な線描で世界中にファンをもつ絵本作家エドワード・ゴリーの展覧会、秋にはジャンルを横断して創作活動を行った瑛九の回顧展、令和5年度に続き箱根と横須賀の連携企画第二弾として「彫刻の森×横須賀美術館」展、そして生誕120周年の節目に「サルバドール・ダリ」展を開催いたします。また、毎年開催している「児童生徒造形作品展」を予定しています。

ここでは、内容の充実にとまない企画展料金を設定した展覧会を「企画展」と定義しています。

10 ページをご覧ください。（2）所蔵品展・谷内六郎《週刊新潮表紙絵》展についてです。令和6年度は、地階所蔵品展1本分を企画展「鈴木敏夫とジブリ展」の会場とするため、年3回（谷内六郎展は4回）それぞれテーマ性のある特集を組み、所蔵品を中心に紹介します。

第1期は地階所蔵品展示室が使用できないため、3月から2階ギャラリーにて、朝井閑右衛門作品の小特集を展示しています。第2期では、横須賀市在住の日本画家・新恵美佐子の展示を行います。また芥川紗織の生誕100年にあわせて、当館を含む国公立美術館10館で、この1年間に各館が所蔵する芥川作品を展示いたします。また、今年度も、美術品等取得基金を活用して写真家・森山大道による1960年代の横須賀を撮った写真の購入をいたしました。その新収蔵を記念して、第4期ではその他寄贈作品なども含めて「新収蔵品展」を特集として組みます。

「2 教育普及事業」について、開催回数や参加人数については、新型コロナウイルス感染症の影響がある状況からの平常化に伴い、通常通りの運用に戻しつつあります。しかしながら、大規模展覧会である「鈴木敏夫とジブリ展」開催に伴い、使用できる部屋に若干制約が生じているため、開催回数に若干変更がございます。

11 ページをご覧ください。達成目標は、令和5年度と同様に「企画展の満足度80%以上」を掲げ、令和5年度1月末までの数値をお示ししています。アンケートは、従来の紙に加え、令和5年8月から神奈川県の電子申請システム e-kanagawa でも回答を受け付けています。展示を見た人に回答していただけるよう、回答ページに接続する二次元コードはアンケートコーナー（本館1階、谷内六郎館）と地階所蔵品展示室に掲示しています。中段にある実施目標は、令和5年度からの変更はありません。

〔事務局・富田〕：「④ 学校と連携し、子どもたちへの美術館教育を推進する。」についてご説明いたします。

13 ページをご覧ください。本項目は、主に中学生以下の子どもを念頭に置いた活動

で、事業計画は、13 ページから 14 ページ上段にかけて記載しています。事業を大きく「学校との連携」「子どもたちへの美術館教育」の 2 つに分け、全部で 10 項目の事業を実施するもので、各項目の詳細は、記載のとおりです。

次に「達成目標」ですが、こちらは「中学生以下の年間観覧者数 40,000 人」としました。例年は、「達成目標」を「22,000 人」程度とし、子どもや家族層に親しみやすい企画展を開催して目標達成のための契機としてきました。令和 6 年度も同様の考えですが、「鈴木敏夫とジブリ展」による家族層の来館の大幅増加を 18,000 人と見込み、達成目標を「40,000 人」としました。なお、「鈴木敏夫とジブリ展」における中学生以下の観覧者の割合は、現在のところ全体の 25%程度となっています。

次いで「実施目標」です。14 ページ下段をご覧ください。こちらは、「学校における造形教育の発表の場として、児童生徒造形作品展を実施する」「学校及び関係機関と緊密に連携し、子どもたちにとって親しみやすい鑑賞の場をつくる」「学校との連携を強化し、小学生美術鑑賞会を充実させる」「美術館を活用した鑑賞教育がいっそう充実するよう、先生のための美術館活用講座をはじめ、教員の授業作りに有益な情報提供を積極的に行う」「子どもたちとのコミュニケーションを通じて、美術の意味や価値、美術館の役割などに気づき、考え、楽しみながら学ぶ機会を提供する」「鑑賞と表現の両方を結びつけたプログラムを実施する」の 6 項目です。「達成目標」は観覧者数を基準としていますが、観覧者数は展覧会の内容に左右されがちであるため、こちらの「実施目標」では、展覧会の内容にかかわらず、子どもにも親しみやすい美術館であるかどうかを評価基準としています。学校の授業や家庭での活動とは異なる、美術館ならではのプログラムを提供し、子どもたちが美術に親しむ機会を増やしていくよう努めてまいります。

〔事務局・日野原〕：「⑤ 所蔵作品を充実させ、適切に管理する。」についてご説明します。事業計画 1～5、達成目標、実施目標ともに例年と同じ設定です。

「5 美術品等取得基金」についてご説明いたします。現在、美術品購入の財源として、ふるさと納税を通じて横須賀市に寄せられる寄附金の一部を美術品等取得基金に割り当てています。そのため、美術品購入に充てられる財源の金額は年度によって異なります。令和 6 年度は、およそ 2500 万円です。その一部を原資として、作品購入を進めてまいります。

〔事務局・下田哲〕：「Ⅲ 訪れるすべての人にやすらぎの場を提供する」「⑥ 利用者にとって心地よい空間、サービスを提供する」についてご説明いたします。

18 ページをご覧ください。事業計画は、令和 5 年度から大きな変更はありません。引き続き、利用者にとって心地よいサービス、空間でいられるよう、受託事業者との連携、施設・設備の維持管理をしっかりと実施していきます。

令和 5 年度の主な修繕は、中段の表のとおりです。空調設備自動制御機器装置、エアハンドリングユニット、防火ダンパーの修繕のための予算がついています。エアハンドリングユニットは、主に空調の送風を行う設備です。

また、こちらには記載がございませんが、令和 7 年度は空調の熱源を中心とした大規

模改修を予定しています。令和6年度は、この改修について、市役所の建築部門と連携しながら、設計委託を進めていく予定です。

達成目標についても、令和5年度から変更ございません。館内アメニティ満足度90%以上、スタッフ対応の満足度80%以上を目標としています。

〔事務局・富田〕：「⑦ すべての人にとって利用しやすい環境を整える。」についてご説明いたします。20 ページをご覧ください。この項目は、障害をお持ちの方など、美術館に来ることが難しいと思われがちな方を念頭に置いた事業の評価項目です。

令和6年度の事業計画としては、「福祉関連イベントの開催」「障害児者向けワークショップ「みんなのアトリエ」の開催」「触察図の制作と活用」「託児サービス」の4項目をあげています。

次いで、「達成目標」ですが、「福祉関連事業への参加者数延べ250人以上」といたします。本項目は、対象に合わせたきめ細かいプログラムが必要となる一方で、合わせれば合わせるほど対象が絞られ、また、少人数での実施が効果的な面もあり、参加人数による評価が難しい項目です。このため従来の実績から妥当と見込まれる数字を目標値としました。各事業の目標値の詳細については、21 ページの表をご覧ください。

最後に「実施目標」です。「実施目標」は「年齢や障害の有無にかかわらず、美術に親しむための各種事業を行う」「触察図など鑑賞補助ツールを用いながら、対話鑑賞等のプログラムを実践する」「展覧会の観覧やワークショップ等に参加される保護者向けの託児サービスについて、積極的に周知し、利用しやすい内容で実施する」の4項目です。本項目の実施を通じて、美術館が健常者のためだけの施設ではないこと、障害の有無に関わらず美術を楽しめること、また各年齢や身体状況に応じた楽しみ方があることを当事者にも、また周囲の方々にも広く伝えていかれるよう努めてまいります。

〔事務局・下田哲〕：「⑧ 事業の質を担保しながら、経営的な視点をもって、効率的に運営・管理する」についてご説明いたします。

22 ページをご覧ください。事業計画は、令和5年度の計画から変更ありません。

達成目標は「電気使用量、水道使用量、事務用紙使用枚数を、過去2年間の平均値を目安とする。」ですが、令和6年度は多くの方のご来館を見込んでいるため、電気使用量と水道使用量については、過去2年間の平均値より多い数値を設定しています。

実施目標については、電気代が特に高騰していますので、今まで以上に職員全員が節電を意識しながら、事業や日々の事務に取り組んでいきたいと考えています。

令和6年度事業計画書案の説明は以上となります。

〔小林委員長〕：それでは、委員の皆様、事務局から説明のありました事業計画案について、ご意見やご質問がありましたら、お願いします。

まず、「① 広く認知され、多くの人にとって横須賀市を訪れる契機となる。」についていかがでしょうか。

〔小林委員長〕：観覧者数見込が大幅に増加していますが、観覧者数の増加に伴う人的な対応はどのように考えていますか。

〔倉林館長〕：「鈴木敏夫とジブリ展」が始まっていますが、受付・展示監視など委託事業者の人数を大幅に増やしています。市職員につきましても、美術館運営課職員に加え、文化スポーツ観光部内での応援体制を構築し、人員を確保しています。

また、観覧者数の増加に伴って増加する電気水道代等の経費を予算に計上しています。

〔前波委員〕：「鈴木敏夫とジブリ展」は他の都道府県でも開催されていたと思いますが、巡回展と自主企画展のバランスは、どのような方針で開催していますか。

〔事務局・工藤〕：他の美術館と連携して開催する巡回展と横須賀美術館の自主企画展の割合は、半々またはどちらかが1本多いという形です。

令和6年度は、8本のうち3本、「鈴木敏夫とジブリ展」「エドワード・ゴッシーをめぐる旅」「サルバドール・ダリ展」が巡回展で、残りが自主企画展です。

〔小林委員長〕：展示作品はもちろん、美術館の建物に注目した広報も行っていけるとよいです。山本理顕氏のプリツカー賞受賞はその契機になると思います。

〔菊池委員〕：「鈴木敏夫とジブリ展」は非常に好評なようで、また、運慶展は令和4年度開催時大変な賑わいがあったので、年間の観覧者数は目標を上回るかもしれません。横須賀美術館の認知度も上がると思います。

新型コロナウイルス感染症の影響がほぼなくなり、通常のボランティア活動が再開できるなど、美術館の運営がよい方向に進んでいくと思いますが、非接触型・オンラインの運営で得た知見はこの美術館を広く知ってもらい足を運んでもらう手段としても展開するのが大変だがよい方法だと思いますのでぜひ活かしてほしいです。

インパクトのある企画展の開催は総事業費も大きく市の財政にも影響が出るためどうしても経営的な視点が入ってくると思いますが、社会教育を前提とした運営をやっていけるとよいと思います。

〔倉林館長〕：社会教育施設として、より多くの人に来ていただきやすい施設を目指しており、市長部局へ移管後の様々な企画展や、コロナ禍で得た知見・経験はしっかりと活かしていきます。

経営的な視点ということでは、「鈴木敏夫とジブリ展」はチケット価格を2,000円という横須賀美術館では最高値としました。収支もしっかりと意識した、メリハリのある運営によって、館の維持管理をしていきたいと考えています。

〔小林委員長〕：他にございませんか。では、よろしいですか。



〔小林委員長〕：「②市民に親しまれ、市民の交流、活動の拠点となる。」について、いかがでしょうか。

〔小林委員長〕：ボランティアはどのくらい、どのように増えていますか。

〔事務局・富田〕：新規ボランティアは基本的に隔年で募集しています。令和5年度に新規募集したため、令和6年度は行わず、次回は令和7年度に新規募集の予定です。

新規募集時には各チームに数人ずつ、全体で10人程度の応募があり、5、6の方が定着されることが多いです。

更新については、基本的に一度登録したボランティアの方には継続して活動していただける仕組みになっており、毎年継続かどうかの意向を確認しているという状況です。ほとんどの方が継続して活動されています。

〔小林委員長〕：美術館のボランティア活動をされる方は美術への関心が高いと思いますが、学芸員との接触によって自身の美術への知見が広がったという話をききますか。

〔事務局・富田〕：充実した活動ができていると伺うこともあり、学芸員を信頼してくださっているという実感はあります。

〔前波委員〕：ボランティアの方の年齢層はどのような分布ですか。もし偏りがある場合は、偏りをなくすような何か対策はされていますか。

〔事務局・富田〕：基本的には50代以上の方が多く、年齢層は高いです。中には80代の方もいらっしゃいます。偏りをマイナスととらえるかどうかですが、今のところ年齢層の偏りがマイナスに働くという認識は強くありません。

ただ、プロジェクトボランティアについては、活動内容が屋外イベントの運営ですので、年齢が高い方だけだと運営が大変になるという面があります。実際は、プロジェクトボランティアは活動日を土曜日にしていて、屋外イベントも実施が土日祝日なので、他のボランティアよりは年齢層が低くなっています。20代、30代の方の参加もあります。

活動内容によって配慮が必要な、好ましくないと考えられる偏りについては、排除できていると考えています。

活動日が土曜日のみんなのアトリエボランティアも、年齢層は比較的低いです。

〔前波委員〕：美術館のワークショップに子どもと参加したとき、ボランティアの方から子どもにとっても気持ちのよいお声がけをしていただき、そこから子どもの表現が広がっていったと感じたことがあります。

〔小林委員長〕：他にございませんか。では、よろしいですか。

〔小林委員長〕：「③調査研究の成果を活かし、利用者の知的欲求を満たす。」について、いかがでしょうか。

〔菊池委員〕：来年度からモニター制度が導入されるかと思いますが、企画展の満足度やアメニティの評価にもそこでの意見等が採用されるかと思いますが、いかがでしょうか。

〔事務局・岡本課長〕：ご意見をいただいていたモニター制度については準備を進めており、令和6年4月から10名のモニターに協力いただくことになっています。年間パスポートをお渡しし、企画展開催期間ごとに1回以上、年間で自由に来館していただき、ご意見をいただく形で開始します。

アンケートの母数を増やす取り組みも始めており、e-kanagawa というシステムを導入しています。また、外国の方にも回答していただきやすくするため、英語版をご用意しています。

他に委員からご意見をいただいていたこととして、令和4年度に文化スポーツ観光部に移管したことによる目標の見直しについてということがありましたが、戻りまして「①広く認知され、多くの人にとって横須賀市を訪れる契機となる。」のうち「商業撮影、取材の受入と誘致」の商業撮影は、移管後に積極的に取り組んでいく項目として追加した項目になります。少しずつ変えてきているところですが、更に検討を続けていきます。

〔菊池委員〕：モニター制度について、事業計画に記載してもよいと思います。

〔柏木委員〕：先程から話題にもなっているとおり「鈴木敏夫とジブリ展」が特に目立ちますが、企画展のラインナップを見ると、全体として非常にバランスがよいと思います。

これだけの数の展覧会をこなしているのは、巡回展を含むとはいえ結構大変なことで、学芸員や館の方々には敬意を持っているところであります。

「鈴木敏夫とジブリ展」のような展覧会には多くの方がいらっしゃいますが一見の方が多いと思い、そういった方に実際に一度来ていただくことで横須賀美術館の良さを実体験として知っていただいて、次の別の展覧会にも足を運んでいただける工夫のきっかけにしていいただければと思います。

〔事務局・岡本課長〕：「鈴木敏夫とジブリ展」は、例年の1年間の観覧者が3か月の間に来る想定目標観覧者数となっています。その方たちにまた来ていただくための取り組みのひとつとして、横須賀美術館の公式LINEを作成しました。「鈴木敏夫とジブリ展」展示室の出口付近に登録の案内と今後の展覧会のお知らせを掲示し、登録していただいた方には展覧会の情報を送信し来館を促せればと考えています。

〔小林委員長〕：例年「児童生徒造形作品展」が開催されているが、年配者にも絵を描く

方が多くいるので、横須賀美術館で選出、展示の機会があればよいと思います。

〔小林委員長〕：他にございませんか。では、よろしいですか。

〔小林委員長〕：「④学校と連携し、子どもたちへの美術館教育を推進する。」について、いかがですか。

〔三浦委員〕：校種によって課題が違います。

小学校については6年生対象の「美術鑑賞会」を安定して受け入れていただいています。児童がお互いの作品を鑑賞するのももちろん意味があることですが、前出のとおり年間を通してバランスのよい展覧会が開催されていますので、目的意識を持って児童生徒造形作品展以外の展覧会を選んで観るという視点があってよいと思います。先生たちは「毎年1月に行く」と思っているところがあるかもしれませんが、年度初めに来館時期を調整すると思いますので、年間スケジュールとそれぞれの展覧会の子どもたちにとっての見どころをアピールしていただくのがよいかもしれません。

中学校は、部活動の顧問が引率することが多いですが、人手不足や働き方改革と密接に関わる部分であり、教員がゆとりをもって自らが美術館に足を運んだり生徒を引率したりしたいと思えるような働きかけをしていければと思いますので、引き続き学校は美術館と連携していきたいです。

〔小林委員長〕：他にございませんか。では、よろしいですか。

〔小林委員長〕：「⑤所蔵作品を充実させ、適切に管理する。」について、いかがでしょうか。よろしいですか。

〔小林委員長〕：「⑥利用者にとって心地よい空間、サービスを提供する。」について、いかがでしょうか。よろしいですか。

〔小林委員長〕：「⑦すべての人にとって利用しやすい環境を整える。」について、いかがでしょうか。

〔小林委員長〕：触察図というのは制作が大変なのでしょうか。

〔事務局・富田〕：令和5年度は朝井閑右衛門の油絵を題材に制作し、凹凸を触って観ていただけるようにしました。

点字図書館での出張鑑賞会は新型コロナウイルス感染症の影響で中断しましたが、今後教材を充実させて再開させたいと考えています。

〔小林委員長〕：触察図のように、何か障害をお持ちの方に鑑賞していただけるように特に対応している美術館というのは、全体のどれくらいあるのでしょうか。

〔事務局・富田〕：多くないと認識しています。博物館での取り組みはいくつかありますが、美術館の中では先進的な取り組みをしていると自負しています。

〔三浦委員〕：「五感を生かした創作活動」という記載がありますが、「五感」ではない人もいますので、学習指導要領では「五感を生かした」という表現は避けて「体全体を使った」というような表現としています。

〔前波委員〕：託児についての感想になりますが、未就学児と一緒にときは美術館に来づらいところがあると思いますが、小学校低学年でも落ち着きがないと、美術館に足を運びにくいところはあると思います。一般的に託児は未就学児向けのことが多いですが、以前子どもは子ども向けのワークショップに参加し、大人は展覧会を楽しむという企画に参加した際、お互い気兼ねなく楽しむことができたことがありました。

〔小林委員長〕：他にございませんか。では、よろしいですか。

〔小林委員長〕：「⑧事業の質を担保しながら、経常的な視点をもって、効率的に運営・管理する。」について、いかがでしょうか。よろしいですか。

〔小林委員長〕：「①広く認知され、多くの人にとって横須賀市を訪れる契機となる。」から「⑧事業の質を担保しながら、経常的な視点をもって、効率的に運営・管理する。」までご意見を伺いましたが、全体を通してご意見はありますか。

〔関口委員〕：横須賀美術館で撮影されたCMの話をきいたことがありますが、改めて「①広く認知され、多くの人にとって横須賀市を訪れる契機となる。」の取り組みなのだなと思いました。著作権の関係で伝えられない部分もあるかと思いますが、あの作品は館内のここで撮影されたというなお知らせができれば、より多くの人に知ってもらいきっかけになるのではないのでしょうか。

〔事務局・岡本課長〕：権利の関係で難しい部分が多いですが、PR可能な部分については、積極的に発信するようにしています。

〔倉田委員〕：横須賀美術館に足を運んだことがなかった開館当初、建設反対の声をきいたことがありました。先日「鈴木敏夫とジブリ展」を観覧しに来館し、またプリツカー賞の報道をきっかけに建物にも注目し、今横須賀の誇りだと思っています。反対の声はもうないのではないかと。これからも楽しみにしています。

〔小林委員長〕：他にいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは事務局に戻します。

〔倉林館長〕：五感の話や託児の話などハッと気づかされるご意見を多くいただきました。できるところから対応させていただきたいです。今後を見据えた際に経費の話はこれからしっかりと考えていかなければならない部分ですので、ご意見を受け止めて今後の参考にさせていただきたいです。

### 【3 その他（１）今後のスケジュールについて】

〔小林委員長〕：次に、「3 その他（１）今後のスケジュールについて」事務局から説明をお願いします。

〔事務局・下田哲〕：それでは、資料3「運営評価委員会スケジュール」をご覧ください。

まず、本日第3回会議では、令和6年度の事業計画書案について、ご確認いただきました。この会議で委員の皆様から頂戴したご意見を参考に、事業計画案をさらに詰めた上で、新年度には完成したものをご提示いたします。

また、令和5年度事業の評価については、新年度になってから事務局において1次評価を行った後に、委員の皆様へ二次評価をお願いする予定です。

新年度の第1回会議では、二次評価をもとに皆様に議論していただき、評価が決定した後に評価報告書を完成させるという流れになります。

第1回会議の日程については、改めて日程調整のご連絡をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

今後のスケジュールについては、以上となります。

〔小林委員長〕：今後のスケジュールについて、委員の皆様から何かありますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは事務局に戻します。

〔事務局・岡本課長〕：長時間に渡り、本日は、ありがとうございました。本日いただいたご意見をもとに、引き続き取り組んでまいります。

来年度も引き続きよろしくお願いいたします。

### 【閉会】